

木更津工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語ⅡB		
科目基礎情報							
科目番号	0029		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	井口時男ほか『現代文B』（教育出版、2018年）、『ことばを広げる新漢字ノート』（浜島書店）						
担当教員	田嶋 彩香						
到達目標							
1.話し手の言葉を聴き取り理解することができる（聴く力）。 2.授業で扱う様々な文章を読解することができる（読む力）。 3.自分の思いや考えを表現することができる（書く力）。 4.常用漢字をほぼ読み書きできる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		話し手の言葉を正確に聴き取り、かつ真意を押し量り、対応することができる。	話し手の言葉を正確に聴き取り理解することができる。	話し手の言葉を正確に聴き取り理解することができない。			
評価項目2		常用漢字を含め、授業で扱う様々な文章を正確に読解し、かつ鑑賞することができる。	常用漢字を含め、授業で扱う様々な文章を正確に読解することができる。	常用漢字を含め、授業で扱う様々な文章を正確に読解することができない。			
評価項目3		常用漢字を使い、自分の思いや考えを的確に、かつ独創的に表現することができる。	常用漢字を使い、自分の思いや考えを的確に表現することができる。	常用漢字を使い、自分の思いや考えを的確に表現することができない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	国語Ⅱでは、特に「読む」「書く」等の基礎学力の向上を重視する。また古典的な文章を通じ、広く日本の文化や伝統に触れ、基礎的な知識を身につけると同時に豊かな人間性を養うべく、幅広い視点から教養を深めることを目標とする。						
授業の進め方・方法	①授業は基本的に教科書に沿って講義形式で行う。 ②講義は集中して聴き、ノートを取るのとは当然である。それに加えて、自分の意見やアイデアを記録する癖をつけること。 ③毎週1回程度、漢字テキストからプリント形式で小テストを行うので、自学自習を進めておくこと。 ④指示された課題は、目的を理解し、丁寧に取り組むこと。						
注意点	自ら疑問点を出し、積極的に質問して授業の中で解決していくという態度が大切である。そのためにも予習として前もって作品を読み、わからない語句等を辞書で調べていくことが望ましい。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	①評論(3)立川健二等を読解する。	文章を客観的に理解し、考えを深めることができる。			
		2週	②評論(3)立川健二等を読解する。	筆者の主張に関して自分なりの考えを持つことができる。			
		3週	①小説(2)小川洋子等を読解する。	小説家特有の表現技巧を知る。			
		4週	②小説(2)小川洋子等を読解する。	小説の世界観を味わい、鑑賞する。			
		5週	①評論(4)谷崎潤一郎等を読解する。	文章を客観的に理解し、文化に関する考えを深めることができる。			
		6週	②評論(4)谷崎潤一郎等を読解する。	筆者の主張に関して、自分なりの考えを持つことができる。			
		7週	言語活動 資料をもとに報告する。	設定された課題に対し、調査の方法を学び、まとめる。			
		8週	後期中間試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。			
	4thQ	9週	試験の解答と解説	試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。			
		10週	①小説(3)夏目漱石等を読解する。	小説が書かれた背景、作家について学ぶ。			
		11週	②小説(3)夏目漱石等を読解する。	小説に描かれた人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わう。			
		12週	③小説(3)夏目漱石等を読解する。	描写意図などを味わい、その効果について説明できる。			
		13週	④小説(3)夏目漱石等を読解する。	小説に描かれた人物の心情を読み込み、小説の本質を学ぶ。			
		14週	言語活動 ディベートで討論する。	ディベートの方法を学び、実践する。			
		15週	後期期末試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。			
		16週	試験の解答と解説・年間の授業の間総括	試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0